

## 編集後記

▼大変お待たせ致しました。「現代宗教研究」第四十四号をお届けします。

▼平成二十一年九月の中央教化研究会議での、田澤元泰所長（当時）の基調報告「『立正安国』と教化学」を収録しました。ほぼ五年在任され、同年十二月に退任されました田澤所長の「教化学」の集大成であり、宗門運動「立正安国・お題目結縁運動」に向けた現宗研のスタンスを示すものと言えるかと思われます。是非、御一読下さい。

▼福岡伸一先生（青山学院大学教授）の「『生命』とは何か」は、同じく中央教研での記念講演のダイジェストです。マスコミでも引つ張りだこの福岡教授ですが、福岡生命学のエッセンスを語って頂いています。動的平衡という生命観は、単に生命観であるにとどまらず、わたしたちのものの方・考え方の全般について、大いに示唆を与えてくれるのではないかと思います。残念ながら、福岡先生の御都合で、講演の全てを収録することは叶いませんでしたが、本文中でも紹介されております、福岡

教授の著書を繙かれることをお勧めいたします。

▼研究ノートは、例年通り、主として研究員諸師のそれぞれの研究成果を収録しております。現宗研内の研究調査分担にのっとったものあり、研究員個人の研究課題に即したもののあり、様々ですが、概ね現宗研の「研究例会」において発表されたものです。

▼平成二十一年度より、現宗研の研究調査体制を組み替え、研究調査項目の分担をシャッフルしました。そのため今号には、研究・調査プロジェクト報告が一本のみとなっておりますが、次号に御期待ください。

▼教化学研究発表大会の成果は、本誌には収録せず、別冊として刊行することといたしました。同大会の内容は、第五回まで「教化学論集」として刊行され、六回から九回までは本誌に併収しておりましたが、再び別冊とするものです。

▼宗門運動本部企画推進会議の「いのちの活動プロジェクト」による「いのちの活動」についてのアンケートの報告書を収録いたしました。現宗研が直接に担った調査では御座いませんが、アンケート作業部会に協力したた

めのものです。「いのちに合掌」を掲げて宗門運動を進める上での基礎資料となるかと思われます。御高覧ください。

▼年度途中で宗務内局の交替があり、それにともなつて、田澤元泰所長から三原正資所長に代わられました。新所長のもと、現宗研も、日蓮宗教化学の確立という「夢」を追いたいと考えております。

(T・S生)